



ほ場整備事業 ～杉沢前田地区～(2021年10月14日)

遊佐町の「杉沢前田地区」では、不揃いな田んぼの区画を整形したり、水路や農道を整備することで営農のしやすい田んぼを作る、ほ場整備事業を実施しています。

事業区域には縄文時代や中世・近世の遺跡があり、縄文土器や江戸時代の住居の柱跡といった埋蔵文化財が田んぼの下に眠っています。

工事着手前に発掘調査を行い、埋蔵文化財を保護しながら工事を実施しています。

受注者や地元の方々のご協力を得ながら、完成に向けて工事を進めています。

【取材：庄内支庁農村整備課 佐藤（幸）、投稿：庄内PJA 池田】





「N.N.REIKO」何者か? (2021年10月14日)



庄内管内で実施している農業農村整備事業の理解促進を目的に、農村の現状や事業の内容を情報発信している「N.N.REIKO (エヌ.エヌ.レイコ)」ですが、そもそも「N.N.REIKO」とは何者か。「何代目」とは何か。

謎めいた部分について、今回明らかにします。

まずは、「N.N.REIKO」の「N.N」は農業農村整備事業の頭文字を指しています。

これは想像がつくと思いますが、では、「REIKO」はと言うと、開設時に広報を担当していた職員の名前「レイコ」から来ています。

表情はHPの季節毎に変わる表題部の絵から想像して下さい。

また、公務員の宿命である人事異動により、担当者が変わっており、歴代の担当者が〇代目を襲名しています。

中には男性もおりました。ちなみに現在の5代目の担当者は女性です。

このように、開設以来、歴代の担当者が庄内農村整備のいまをお伝えし、令和3年9月末で709回を数えております。

引き続き掲載記事の充実を図っていきますので、応援をよろしくお願いいたします。

【投稿：庄内PJAチーフ 佐藤（和）】

※「農業農村整備事業」とは、水田に必要な農業用水を確保するためのため池や揚水機場、水路の建設、営農条件を改善するための水田、畑の整備などを行っている公共事業の総称です。

※「庄内PJA」とは、庄内総合支庁産業経済部農村計画課の職員で構成するプロジェクトAチームのことで、「A」はアカウントビリティ（説明責任）の頭文字です。



地域と子どもたちが一体となって「魚の学習会」(2021年10月11日)



庄内町家根合地区で、余目第一小学校4年生の「魚の学習会」を開催しました。

めだかの里米を栽培している農家と、土地改良区や県総合支庁が協力して毎年実施しています。

田んぼに給水する調整池の水を落とし、最上川から入ってきた様々な魚を捕まえるのです。

今年捕まえたのは、コイ、モツゴ、オイカワ、ゲンゴロウブナ、ナマズ、コクチバスなど12種類です。

子どもたちは、調整池の中に入って、泥んこになるのもかまわず、一生懸命捕まえました。

そして、土地改良区の魚の先生から、捕まえた魚はどこからやってくるのか、それぞれの魚にはどのような特徴があるのかを教えてもらいました。

最後に「魚の種類がいっぱい分かったし、魚をたくさん捕まえられてよかった」、「外来種がいっぱいいることを知った」と感想を話していました。

【取材：庄内総合支庁農村計画課 高橋】





子どもたちと農家が一体となって育てた「めだかの里米」(2021年10月20日)



庄内町立余目第一小学校で、4年生と家根合地区の農家が一体となって育てた、「めだかの里米」の贈呈式が行われました。

「めだかの里米」のきっかけは、「絶滅危惧種のメダカを救おう!」と子どもたちが大人たちに訴えたことでした。

子どもたちのメダカ保全活動は、田植え体験、メダカの放流、メダカの捕獲大作戦、稲刈り体験、魚の学習会まで、一連の活動です。

贈呈式では、家根合地区の佐藤昭一さんが、子どもたち一人ひとりに1kgずつお米を贈りました。

1kgの袋には、「自分たちの植えた苗が、ちゃんとお米になってうれしかった」、「稲刈りは難しかった。こんなに大変だとは思わなかったけれど、楽しくできました」という、子どもたちの感想が描かれています。

最後に、佐藤昭一さんから、「体験したことを学習や生活に役立てて欲しい」、「後輩の3年生に環境の大切さ、継続する事の大事さを伝えて欲しい」と話がありました。

【取材：庄内PJA 五十嵐】





生き物調査～野沢地区～(2021年10月15日)

農地整備などの土地改良事業は環境との調和に配慮して行う必要があり、複数回調査を行う際は、時期を変えて調査を行う場合があります。

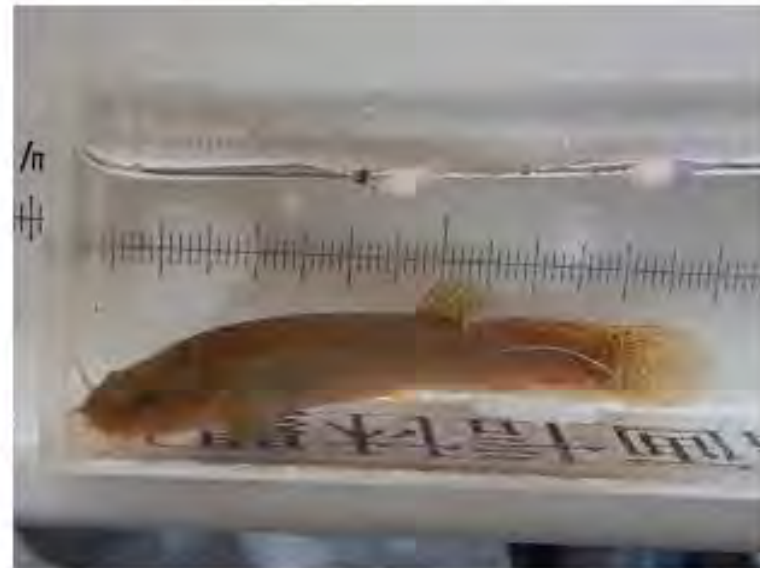
今回紹介する野沢地区は、昨年度は夏に調査を行い、今年度は秋に調査を行いました。

野沢地区は鳥海山からの湧水があり、稲刈り後も水路に水が流れていました。

発見した希少種は、絶滅危惧のホトケドジョウ、ニホンアカガエルであり、魚類と両生類は概ね昨年度と同様の結果となりました。

今後、調査結果をもとに、環境情報部会で検討を行い、事業での環境配慮を計画していきます。

【取材：庄内PJA 八畝】





ほ場整備事業 竣工式 ～鎌田地区～(2021年11月9日)

「鎌田地区」では、県営ほ場整備事業が完了したことを記念して、竣工式が開催されました。

鎌田地区は鶴岡市羽黒町に位置し、平成25年から令和2年にほ場整備工事を実施しました。

整備された大区画ほ場は、担い手農家へ集約化され営農の省力化が図られるとともに、一部のほ場ではさといも、えだまめ、プチペールなど収益性の高い作物の栽培に取り組んでおり、農業所得の向上による経営の安定化が期待されます。

当日はあいにくの雨でしたが、多くの関係者の参列があり、滞りなく式を終えることができました。

地区のほ場整備協力会会長の成澤さんは「他の地域よりも排水不良や藤島川の越水などにより大変苦労して営農してきたが、整備したことで、水稻の労働時間削減、高収益作物の栽培など、安定的な農業収入を得ることが可能となった。地元関係者の皆様をはじめ各関係機関の皆さまのご理解とご協力に感謝したい。」と述べていました。

【取材：庄内支庁農村整備課 高山、投稿：庄内PJA 池田】





農村景観～北楯大堰～(2021年11月22日)

歳月を経て農村の自然環境と調和した農業水利施設は、良好な景観を形成しています。

写真は、世界かんがい施設遺産である北楯大堰です。

周囲の自然に溶け込むよう、水路の側面は化粧ブロックで造られましたが、いまや苔が一面に生えて自然の一部になっているようです。

また、農業水利施設は、魚のほか、水生植物や水生昆虫などの生き物の生息場所でもあります。

【取材：庄内PJA 八畝】





農業水利施設を長く安全に使用するために(2021年11月24日)

農業水利施設を長い期間、安心・安全に利用するために、機能診断により施設の健康状態を把握し、補修等の対策や時期を検討する機能保全計画を策定しています。

今回は、ポンプから田んぼに水を送る送水管の内部をカメラで調査しました。

カメラを取り付けた機器は、タイヤで管内を移動し映像をモニターへ映します。

また、アームについたカメラを回転させることで、管の継ぎ目を360度垂直に確認することができました。

管内の状態は鮮明に映され、継ぎ目の寸法も測定できました。

今後も、直接人が確認できないようなところにはカメラ調査等の技術を活用していきたいと思います。

【取材：庄内PJA 八畝】





農道にも環境配慮(2021年12月23日)

皆さんも利用している農道（広域農道などと呼ばれていて、市町村が管理している農道）にも環境に配慮した施設があります。

写真にある水路にはスロープ（斜路）が付いていて、これは水路に入った生き物が陸地に上がるためのものです。

また、水場を求める生き物にとっては、水場を下りる道にもなります。

生き物が生息・生育する場所と移動する道を結んだネットワークを守ることは、事業後の環境への影響を小さくすることにつながります。

【取材：庄内PJA 八楯】





冬の水環境(2022年1月25日)

酒田市の旧平田町にある飛鳥沼は、多種多様な野生生物が生息可能な空間の保全等を目的に、平成6年度から12年度に自然環境保全整備事業で整備しました。

飛鳥沼にはハクチョウやカモが飛来し、せせらぎ水路や遊歩道を楽しむことができる緑豊かな公園となっています。

今年の冬は雪が多く、この寒さの中では、生き物の姿は見られませんでした。雪をかぶった樹木や水面が、農地と住宅地との間のきれいな景観（雪景色）となっていました。

雪のない時期も改めて紹介したいと思います。

【取材：庄内PJA 八鍬】





「景観形成活動」の取り組み (2022年2月16日)

酒田市日向（にっこう）保全会は多面的機能支払交付金を利用し、農村環境保全活動を実施しています。

地区内の集落では、今年も早朝からの清掃活動や花の植栽など、さまざまな活動を通して農用地を活用した景観形成活動を行いました。

高齢化社会の中で、農地を守ることはもとより、地区内の人と人とのつながりを守り続けていくことが大きな目的です。

地域農業の持続や農業資源をみんなで守り続けていくことが、この地域の持続的な発展につながっていくと確信しています。

[日向保全会だより第9号 \(PDF: 1,892KB\)](#) ←ぜひご覧ください!

【取材：庄内PJA 北川】





工事現場での環境配慮(2022年3月3日)

自動車に「〇〇年度基準」と燃費性能についてステッカーが貼られているのと同様に、建設機械にも「排出ガス基準適合車」というステッカーが貼られているものがあります。

これは、私たちの健康の保護と生活環境を保全するために排出ガス規制の基準に適合した車両に貼られています。

このように、工事現場においても大気汚染の防止を図る建設機械が使用されています。

はたらく車の展示会があったときは、貼られているステッカーもご覧になってはいかがでしょうか。

【写真提供：庄内総合支庁農村整備課、取材：庄内PJA 八鍬】

